

研究発表もうしこみフォーム

氏名：福田真理子

氏名のローマ字表記：FUKUDA Mariko

所属：東京外国語大学言語文化学部

専門分野：モンゴル語学・言語学

発表のタイトル：モンゴル語における方向格と共起する動詞

発表要旨（600字～800字程度）：

本研究ではモンゴル語における方向格と共起する動詞について、コーパス調査とインタビューにより明らかにする。方向格とは日本語で「～へ」「～に」と訳される動作の方向を表す格であり、yawax「行く」、xarix「帰る」などの移動を表す動詞や xarax「見る」、utasdax「電話する」などの動詞が方向格と共に用いられるとされている。例として、「来年モンゴルに行く。」という文はモンゴル語ハルハ方言において *daraa jil mongolruu yawna*. (*daraa jil mongol-ruu yaw-na*; 次 年 モンゴル-DIR 行く-NPST) と表現される。

しかしながら筆者がモンゴル語ウジムチン方言の方向格について調査したところ、方向格が *alayadaqu*「叩く」、*siyaqu*「殴る、打ち込む」、*nisalqu*「弾く」、*iskülkü*「蹴る」、*tüsikü*「寄りかかる」、*daruqu*「押す」など、対象への接触を表す動詞とも共に使われうることが明らかになった。例えば「地面に杭を打ち込む」は *γajjarjuu γadasu siyaqu* (*γajjar-juu γadasu siya-qu*; 地面-DIR 杭 打つ-FUT) と表現できる。ハルハ方言においても *coxix*「叩く」と共に方向格が用いられることが指摘されているが、十分には検討されていない。

そこで本研究では、方向格と共に用いられる動詞を網羅的に明らかにするべくコーパスによる調査を行う。必要に応じて母語話者へのインタビューを実施し、容認性や意味の確認も行う。なお、本研究の調査対象とする言語はコーパスのデータが豊富なハルハ方言である。

(略号一覧：DIR directive 方向格／FUT future 未来／GEN genitive 属格／NPST non-past 非過去／PERF perfect 完了)